令和７年度学校評価計画書（最終）

学校名（宮内小学校）

評価計画					自己評価						
中期経営目標 （めざす児童生徒像）	短期経営目標 （めざす児童生徒像）	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	結果と課題の分析	学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
確かな学力の定着 （自ら学び合う子）	・各教科等の目標を達成するための学びを定着させる	・全教科で学習計画表を活用し、ゴールと見通しを児童と共有する。	・授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると捉える児童の割合。	90%	92%	95%	100%	A	・児童アンケート「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる。」95%。つけたい力と単元計画を児童と共有することは主体的に学ぶ児童の育成に効果的である。	・「自由」の中でのルールは自己決定だと思っている。今の子供たちに自己決定の場を与えることは有効である。スッテプ１の児童が授業以外で活躍できるような場を設けてほしい。	・児童が主体的に学びに向かう土台は整いつつあるが、引き続きゴールと見通しを共有していく。
		・特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学びを提供する。	・１月実施の学力調査において、国語、算数とも、全学年、①ステップ５を20%以上、②ステップ１を８%以下にする。	①100% ②100%	— —	①90% ②100%	①90% ②100%	①B ②A	・学力テストの結果は、①ステップ5:18.0%（国：18.4%、算：17.6%）、②ステップ１:7.7%（国:6.1%、算：9.3%）。今年度の取組である「ステップ１を8%以下」を達成することができた。	・特別支援教育の視点を生かした環境づくりで、ステップ１の児童が学びに参加できていると思う。継続して取り組むとよい。	・学力テストの結果を分析し、授業改善に生かしていく。
		・年度内に授業で準備する教材のデータベース化を行う。	・全学年全教科データベース化が完了する。	100%	77%	90%	90%	B	・学年ごとに、各教科の単元計画やワークシート等をフォルダに整理している。90%達成。国算については全学年入力済。	・データベース化は多様な学び方をする子供たちに対応できるし、職員の働き方改革につながる。	・データベース化は未入力の所があるので、今年度中に完了し、来年度データベースが使えるように整える。
自律と協働の力の育成 （心豊かな子）	・学校の中で一人一人が認められ活躍できる場を増やす。	・つながり支援の計画的な実施をする。	・学期２回以上、提案し各学級で実施	90%	79%	83%	93%	B	・委員会などの児童会活動や縦割り班活動、PBS に取り組むことで、自己有用感を感じたり他者を意識して行動したりする場を多く設けることができてきている。	・不登校の児童生徒が増加する中で、自己有用感を感じられる委員会活動が展開されているのはとてもよいと感じた。子供自身が企画、運営することで、高学年は自己有用感が高まり、それを見ている低・中学年の児童は憧れの気持ちを抱いており、キャリア教育の素地にもなっていると感じた。	・自己有用感を高められるよう、より効果的な場の設定について引き続き考えていく必要がある。
		・学校のきまりを児童基点で見直す。	・見直しについて代表委員会で話し合い改正する。	90%	90%	90%	100%	A			
		・児童会活動を計画的に実施する。	・計画（4 月作成）に基づいた実施をする。 ・自分にはよいところがあると捉える児童の割合。（児童アンケート）【校区共通項目】	90%	95%	95%	100%	A	・学校のきまりを児童基点で考える機会を設けたことで、自分たちの生活をよりよくするためにという思いで、各種児童会活動に取り組むことができた。		・引き続き、学校での活動の全てを自分ごととしてそのきまりをどう守っていくかを児童と一緒に考える場をもっと意識していく必要がある。
体力の向上 （運動を楽しむ子）	・運動にふれる機会を計画的に増やす。	・体育の授業改善	・運動することが楽しい肯定的評価。（児童アンケート）	90%	94%	90%	100%	A	・12 月より、遊びのすすめ・セットメニューを作成し、授業等で実施している。アンケートを取って改善する。	・児童生徒の身体能　力が昔と比較して１～2 年程度遅れていると聞いたことがある。身体能力の向上は全国的な課題。遊びのすすめやセットメ	・次年度は、年度当初からセットメニュー等を紹介し、児童の体力が向上するよう取り組んでいく。
		・休憩時間の外遊びの紹	・年度終わりに年間計画が作成でき	90%	—	100%	100%	A	・委員会活動で、運動をする		

		介と時間の設定を行う。	ている。						イベントや運動会の体ほぐしダンスなど、楽しく体を動かせる企画をした。	ニューを児童に紹介することはよい。多様性の時代だからこそ、団体活動でのルールがある。学校でしか学べないことを引き続き学ばせてほしい。	・委員会が企画する体力を向上するイベントなど、児童自身が考えるよう計画する。
地域、保護者から信頼される学校	・宮内の学びを実感する場をつくる。 ・情報発信の質の向上。	・総合的な学習の時間を中心に、児童が地域と関わる場をつくり、発表する。 ・各種たよりを子どもの学びが見えるものにする。	・本校の取組への満足度。 （児童、保護者アンケート） ・各種たよりの満足度。 （保護者アンケート）	90% 90%	92% 82%	92% 82%	100% 91%	A B	・生活科や総合的な学習の時間で計画的に地域と関わる場を設定することができた。また、アンケートより児童の挨拶に課題があったが委員会が中心となって挨拶運動をしたり、教職員が率先して挨拶をしたりすることを通して、つながり作りを意識することができた。 ・各種たよりを学びの様子が分かるよう写真等を掲載した。宮内小日記で日々の様子の情報を発信することができた。	・地域との連携では、全学年が学習活動等で地域と関わり、広がりを見せている。さらに地域資源を活用してはどうか。アートギャラリーミヤウチと連携して掲示委員会が掲示のアドバイスを受ける等、さらに広がるのではないか。 ・もっと保護者に学校教育に関わってほしいという思いをもっている。ＰＴＡとして、行事などで保護者をどのように巻き込んでいくか、学校と一緒に考えていきたい。挨拶は保護者がすれば子供たちはすると思っている。	・挨拶については、依然としてアンケート結果が低い。引き続き、児童発信の委員会活動、職員からの挨拶等、取り組んでいく。 ・今後もタイムリーな情報発信を心掛けるとともに、発信内容の質の向上を意識していく。

「達成度」＝報告期の達成値／目標値　　「評価」＝目標値に対する評価の度合い　（A：100%、B：80%以上、C：60%以上、D：60%未満）